

## 宮城県沖地震

昭和五十三年六月十二日午後五時十四分、宮城県沖地震が発生した。私はその時田附建設の建前で、中野栄の建築現場に手伝いに行っていた。

自動車は故障していたので、バイクで行った。体の都合で力仕事を遠慮して、ひうち、ボルト等大事な金具を一人で取り付け、締め付けていった。

夕方予定通り終了、屋根の上には五色の旗が揚がり、祝宴の準備も出来上がり、皆集まれの一声で全員下に降りた。田附社長は二階の梁の上で、出来上りを点検していた時、突然の地震である。

最初はあまり大きな揺れではなかった。十秒近く揺れて長いなど思っていたら、凄い揺れが来た。全員大騒ぎ、建てたばかりの建物は、大きく揺れ今にも倒壊しそう、田附社長は、梁の上で「助けて呉れー」と大声を出し、二階の柱に掴まり、今にも振り落とされそうだった。強い揺れが五、六秒続き、だんだん揺れが小さくなり、地震は終わった。

建前していた隣は、アパートであった。地震が収まってから、年をとった婆ちゃんも、地震が収まったのだから、慌てなくてもよいのに、二階の階段から転げ落ちてきた。重傷の様だった。

さあ大変、上棟の祝宴どころではない。家が心配だ。祝宴の料理や、引き物等を分配、皆帰路に就いた。私はバイクだから、渋滞を尻目に、通端をスイスイと走った。途中、倒壊したビルの前を通ったり、水通が破裂し水浸しになった道路を通ったりして、約二十分で家に帰り着いた。後で聞いたが皆は三時間近くかかったそうだ。

家に帰り着いてビックリ、心配していた建物は無事だったが、店の前はお客さんの行列で、カアチャンと阿部さん（友人）はテンテコマイで応対している、懐中電灯と電池が売れている。「父ちゃん早くナシヨナルに行つて、懐中電灯と電池仕入れ

て来て」と言われ、休む間もなく、卸町の問屋に駆けつけた。店から問屋まで五分位だ、バイクに積めるだけ、積んで店に引き返す。電池は仙台で多く売れるランクに入っているので、工場から直送で入荷していて、在庫は充分あるが、足りない。

すぐトンボ帰りで仕入れに行く。客から受け取ったお金を整理する暇がない。カアチャンと阿部さんは座敷に放り投げ、後から後から続くお客さんの応対でクタクタだった。問屋往復は三回、バイクには積めるだけ、積んで運んだ。

十時過ぎやつと一段落、お金を数えてみたら三十七万円位あった。気が付いたら、夕食を食べていない。次の日になって、今度は生活関連製品が売れるようになった。電気釜、ポット、トースター等である。約二十万円位あったと思う。

電気は夜中に点いたが、水通とガスは止った。私の家には井戸があり自家水通がある。仙台に引越し、開業した年が猛烈な暑さだったので裏庭に井戸を掘り、ポンプを取り付け、冷水で冷やす、ウォータークーラーを取り付けた。十三メートルの深さがあり、良質の水が湧き、水温は十三度である。

市水通が復活するまで、近所の家々に使って貰った。後で仙台市より、協力感謝記念品を戴いた。

その時電気工事していた七郷の家二軒は破損が大きく、余分に二、三百万円かかったそうだ。場所によって、被害が集中していたようだ。その辺の民家ではその後瓦葺きをトタンに換える家が多かった。

この辺は地盤が良いのかあまり被害が無かった。我が家なんかは、七郷にあつたら、潰れていたろう。あの時、バイクで帰ってくる途中一番心配したのは、妻が家の下敷きになっているのでは無いかだった。

建前した田附建設の建物は倒壊もせず、被害も殆ど無かった。田附さんより「村上さんに金具をガッチリ取り付けて貰ったので助かった」と感謝された。